

法遍寺 から大切な 皆様へ

2023年11月1日

日蓮正宗 年間方針

折伏躍動の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

僧俗一致・異体同心の
団結

年間実践テーマ

① 勤行・唱題の徹底で活動
の充実

自分自身が日々納得
のできる勤行・唱題を

② 破邪顕正の折伏で誓願
達成

御聖意を拝し、身軽法重
死身弘法の決意に立つ

③ 寺院参詣と登山推進で
人材育成

『金沢の抜け参り』のお
姿を忘れず寺院参詣・
御登山の推進を強化

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池 6075-1

(電話番号 : 0561-54-9226)

相談無料 <https://hohenji.net/>



2023年10月29日宗祖日蓮大聖人御会式、創立40周年&寺号公称落慶15周年法要

慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日頭上人が開基となって、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ「蘭室の友に交わりて麻畝の性となろう」

お会式での立正安国論のご捧読にて、「汝、蘭室の友に交わりて麻畝の性となる」(御書 248)とある。「蘭室の友」とは高德の人のことをいう。香りの高い蘭の部屋にいと、その香りが自然と体に浸透するように、高德の善人といると、いつのまにかその徳の感化をうける譬えである。また「麻畝の性」とは麻畑の性分のことをいう。本来曲がる性質であるヨモギが麻について真っ直ぐ伸びる様をいう。善良な人に交われば自然に正されることを譬える。龍樹菩薩は「人には三業(身・口・意)がある。身(行)と口(言)が善行となれば、意(心)も自然に善心となっていく。曲がり草が麻の中に生ずれば、扶けなくても自ずから真っ直ぐとなるように」(趣意)と説いている。法華経の原理もしかりである。身で御本尊に向かい、口で南無妙法蓮華経と唱えるところ、心(命)が変わるのである。一心不乱に御本尊に唱えよう。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ その39)

前回に続く「創価学会破門通告書」の「第二 創価学会の教義上の違背」を掲載。「(二) 宗祖大聖人の究極の重大事たる、三大秘法中の本門戒壇の意義について、かつて池田氏が、浅見をもって、『戒壇ということは、ほんの形式にすぎない。実質は全民衆が全大衆がしあわせになることであります。その結論として、そういう、ひとつの石碑みたいな、しるしとして置くのが戒壇建立にすぎません。したがって、従の従の問題、形式の形式の問題と考えてさしつかえないわけでございます。』などと決め付けて大聖人の正意を汚す発言をし、また正本堂の意義についても、諸種の書面等によって指摘したにもかかわらず、池田氏並びに創価学会首脳は、その誤りに対して、全く反省懺悔を示さず、かえって反抗・反駁をもって応じてきました。このことは、創価学会が、既に法主の教導に背反する大謗法団体と化したことを証するものであります。

(三) 創価学会では、現在、盂蘭盆会や彼岸会等の年中行事や、葬儀をはじめとする冠婚葬祭などの儀式法要を、僧侶不要として信徒のみで独自に執行したり、塔婆や戒名等を無用とするなどの邪義を立てております。これらは、己義をもって、本宗伝統の化儀を改変する大謗法であります。さらに、このことは、本宗寺院から信徒を隔離する行為ですから、三原則の『折伏した人は信徒として各寺院に所属させること』にも、明らかに違反するものであります。」

今回は「第三 創価学会の信仰上の違背」の項となります。また「正しい仏教について」の項はしばらくお休みとなります。